

巻 頭 言

『心理相談室研究 第24号』をここにお届けいたします。

大学院生、研修生の事例論文に貴重なコメントをいただきましたコメンテーターの先生方には心よりお礼申し上げます。粗削りな部分もあるかと思いますが、彼女たちの取り組みを温かく見守り下さり感謝申し上げます。また、日頃から本学の大学院生、研修生の相談事例に対してご指導をいただきお支えいただいているスーパーバイザーの先生方にも改めてお礼申し上げます。

2022年度は、大学の授業形態も対面授業に戻す形となり、相談室の相談活動も従来に近づける形で行うことができたと同時に、学外に向けた地域貢献活動も、感染拡大防止に配慮しつつ、さまざまに行うことができました。

ケースカンファレンス等の授業をはじめ、院生・研修生の相談面接、PCIT 面接、5領域の学外実習と事前・事後指導など、感染拡大防止に配慮しつつ、対面形式で現地で実施することができました。

夏の心理相談室ウィークでは、無料相談と、新たに無料発達検査を実施しましたところ、申し込みがあり、検査を通して来談者の発達水準や課題を共に考える機会となりました。公開講演会は、オンデマンド形式で期間を設けて公開しましたところ、300回もの視聴回数があり大変盛況となりました。

また、地域支援の一環である地域実践部の「アウトリーチ活動」として、教育・子育て・司法領域における3件の活動が、数年ぶりに行われました。年度末には、専門家向けの研修会として、「臨床のためのバウムテスト入門」を大学にて実施しました。

このように、運営委員・院生・研修生スタッフの皆様の協力のおかげで、地域に開かれた相談機関として、新しい試みも始めることができたこと、とても嬉しく思っています。

なお、今年度は、公認心理師試験を受験した修了生の合格率が、一昨年度、昨年度に続き、100%でした。3年連続で全員合格したという嬉しいニュースをここにお届けします。このような結果が得られたのも、学内外での臨床教育や研究活動において、院生たちが真摯に取り組んだ成果であると思われます。また、日頃より学内外の実習において、きめ細やかな教育活動を展開している教員・スタッフの尽力のお陰でもあると思います。今年度受験した修了生たちには、ここでの経験や訓練を糧に、新しい現場での活躍を期待しています。

大学も変革を求められる過渡期の時期にありますが、引き続き、スタッフの皆様と協力しながら、心理相談室の活動を安定しつつ発展させていけるよう、鋭意努めたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

神戸女学院大学大学院心理相談室
室長 須藤 春佳